2025年度第２回ファイナンシャル・プランニング技能検定１級実技試験

Part Ⅰ （2025年10月５日）　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

●設　例●

地方中核都市で情報通信機器の販売・施工・保守を営むＸ株式会社（非上場会社）は、Ａさん（70歳）が40年前に脱サラして設立した会社である。過去、経営に苦労する時期もあったが、顧客のオフィス環境を分析し、最適な通信環境の構築を提案する営業力を強みとして、今では業績も堅調に維持できている。

【事業承継について】

Ａさんの長男Ｃさん（42歳）は、大学卒業後、Ｘ社の取引先でもある大手通信会社に就職した後、７年前にＸ社に入社し、昨年、取締役に就任した。長男Ｃさんは、前職で培った通信技術の知識を活かした提案営業で実績をあげており、社内でも後継者として認められている。Ａさんは、独立前に所属していた会社が事業承継で混乱したのを目の当たりにした経験から、早くから長男Ｃさんへのスムーズな事業承継を企図してきた。Ｘ社株式について、長男Ｃさんが入社してから毎年少しずつ贈与してきたほか、妻Ｂさんの相続時には妻Ｂさんの保有分を長男Ｃさんに相続させ、現在に至っている。Ａさんは、遅くとも75歳までには事業承継に目途をつけたいと考えている。

Ｘ社の専務取締役である甲さん（68歳。Ａさんとの親族関係はない）は、前社時代の部下で、Ｘ社の設立以来、Ａさんの右腕として経営を支えてきた。甲さんはＸ社株式を10％保有しており、Ａさんは、長男Ｃさんへの事業承継に先立って買取り等の処理をしておきたいと考えている。

【資産承継等について】

Ａさんは妻Ｂさんを病気で亡くしており、現在は長男Ｃさん家族と二世帯住宅で同居している。長女Ｄさん（38歳）は、夫と子の３人で都内にある社宅で暮らしており、地元に戻る予定はない。Ａさんは、長男ＣさんにＸ社株式と自宅を相続させる一方、親として、長女Ｄさんにも相応の財産は残してあげたいと思っている。

また、足許の経営課題として、人手不足の中、営業力の裏付けとなる人材確保・育成に腐心しているところ、取引のある保険会社から、「福利厚生プラン」の提案を受けた。Ａさんはこの提案を前向きに検討しているが、中立的な第三者の意見も聞いてみたいと思っている。

【Ａさんの所有財産の概要】（相続税評価額、土地は小規模宅地等の評価減適用前）

１．現預金	：	１億円（役員退職金は考慮していない）
２．Ｘ社株式	：	１億3,760万円
３．自宅		
①土地（200㎡）	：	4,000万円
②建物（築10年）	：	2,240万円
合計	：	３億円

※Ａさんの相続に係る相続税額は、約7,000万円（小規模宅地等の評価減適用前）と見積もられている。

【Ｘ社の概要】

資本金：1,000万円　会社規模：中会社の大　従業員数：40人　配当：毎期50円／株
売上高：15億円　　経常利益：4,000万円　　純資産：４億円
株主構成（発行済株式総数２万株）：Ａさん80％、長男Ｃさん10％、専務甲さん10％
株式の相続税評価額：類似業種比準価額7,000円／株、純資産価額23,000円／株（注）
（注）Ｘ社は投資用として居住用マンション（一戸）を保有している。

（注）設例に関し、詳細な計算を行う必要はない。

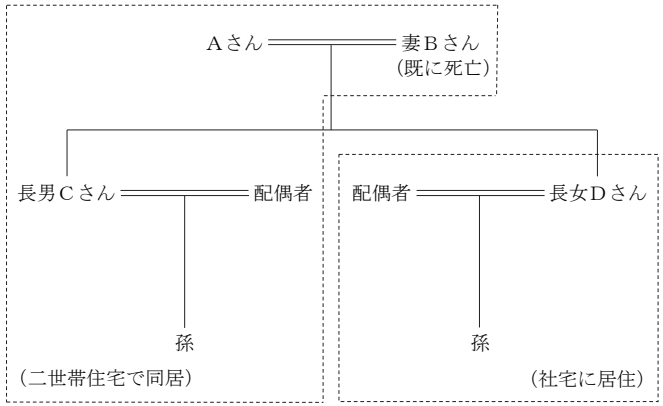
検討のポイント

●設例の顧客の相談内容および問題点として、どのようなことが考えられるか。
●それらの相談内容および問題点を解決するために、どのような提案・方策が考えられるか。
●それらの方策（解決策）のなかで、何を顧客に提案するか。その理由・留意点は何か。
●ＦＰと職業倫理について、どのようなことが考えられるか。

【Ａさんの家族構成（推定相続人）】

長男Ｃさん（42歳）：Ｘ社取締役。Ａさん、妻と子の４人で二世帯住宅に居住している。
長女Ｄさん（38歳）：会社員。夫と子の３人で夫の勤務先の社宅に居住している。

【親族関係図】



（メモ余白）